

徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」議事要旨

I 日 時 平成30年8月2日（木）午後2時から午後4時まで

II 場 所 徳島県庁11階 1104会議室

III 出席者（敬称略）

【委員】 10名中9名出席

青木正繁（部会長）、近藤明子（副部会長）、
上田ゆりえ、近森由記子、松本卓也、池添純子、岡田育大、竹内祐介、村松享

【オブザーバー】 10名中7名出席

吉野信吾、吉田寛子、茂村歩、新居美咲、松田沙代、富田理香、川西永悦

【県】

総合政策課長 ほか

IV 次 第

1 開 会

2 議 事

(1) 新たな総合計画の策定に向けての「若者意見取りまとめ」について

(2) その他

3 閉 会

V 配付資料

・次第

・委員名簿

・資料1 徳島県に関する高校生・大学生アンケート結果概要

・資料2 対話集会「新未来セッション」の開催結果概要について

・資料3 若者クリエイト部会 H30年度若者意見取りまとめ（案）

VI 議事

1 新たな総合計画の策定に向けての「若者意見取りまとめ」について

事務局から資料1「徳島県に関する高校生・大学生アンケート結果概要」、資料2「対話集会「新未来セッション」の開催結果概要について」、近藤副部会長から資料3「若者クリエイト部会 H30年度若者意見取りまとめ(案)」に基づき説明があった後、意見交換が行われた。

(青木部会長)

今ご説明いただきましたこの資料3については、今からご意見をいただきまして、最終

の取りまとめをしていきたいと考えています。まとめたものは、後に開催されます「総合計画審議会」に、部会として提言してまいりたいと考えておりますので、みなさんご意見をどうぞよろしくお願いたします。

(岡田委員)

林業分野について、「経済・産業」のところで、「農林水産物が安全・安心な食材」とあるが、林業が「食材」となると。林業が入っていないように思います。

今、SDGsの枠組みであったりとか、サステイナブルな社会を実現するためにどうすればいいかということを考えると、プラスチックとかそういうのを使うのではなく、10年後、50年後もそうなんだけど、木材を利用していく、地域の中での木材の循環であったりとか、子どもたちから大人までの木を使うという事に対する意識の向上であったりとか、そういったことは必要かなと考えています。再生可能な資源ということで。

(近藤副部長)

これに関して、担い手が少ないということもあるかもしれませんが、困ってるとか将来こんな技術を活かしたらといった展望はあるのでしょうか。

(岡田委員)

来年2月に全国の「木育サミット」が徳島で開催されるというような状況で、徳島の木育に対する取組が評価されていて、歴史もあり、木工教室とかもされてたりするのもありまして。評価はされているんだけど、今の20代、30代の世代が、例えば何かものを買う時に、消費行動において、地元の木を使うことがいいとか、そういう感覚で消費行動ができていくかということ、まだ至っていないのだろうかと思います。少しずつ意識を向上させるという、それが結局、サステイナブルな資源の利用になる。

(近藤副部長)

阿波おどりが徳島とは思われていないということについて、事前にご意見をいただいておりますが。

(岡田委員)

今のままだと高円寺の阿波おどりになりますよね。世界的にも高円寺が阿波おどりの中心地と思われてしまう可能性がある。例えば、東京で「世界阿波踊り協会」という団体も立ち上がったとしたら、東京の、日本の阿波おどりなんですよ。でもその前に、徳島の本拠地で「世界阿波おどり協会」があって、世界の阿波おどりを牛耳っているといったらおかしいですが、オープンに踊れる機会を提供しているという形である方がいいんじゃないかなと。世界に向けて、徳島の阿波おどりと謳えてない。見え方として。ただ、そこはあえて徳島の阿波おどりで、本場阿波おどり、「本場・本拠地・聖地徳島」に、みんな足を運ばなければと仕掛けていけばインパクトであったり、そういうことにもつながるでしょうし。徳島県の人口は減っているけども、阿波おどり人口は増えているというようにすれば、徳島県の関係人口あるいは交流人口を増やしていけるようになるかもしれない。

阿波おどりをしている人は徳島県民。それぐらいの意識を持ってPRしていった方がいい。中でやるんじゃないかと外向きにしっかりと発信しようというメッセージです。

踏み込みにくいところではあると思うんですけど、世界に向けて徳島がというのがキーワードなんです。これは誰も発信していないとか、遠慮しているのかもしれない。高円寺に。でも阿波おどり人口は確実に増えてるじゃないですか。

(近藤副部長)

対話集会「新未来セッション」のときに、徳島市の阿波おどりは知られてるけど、西の阿波おどりは知られてないという話があって、ぜひ知ってほしい。徳島市だけではないんだよと言っていたので。徳島の中でもう少し盛り上がって世界に発信したらいいのに。

高校生も今その研究をしているみたいです。

(岡田委員)

県のポスターがあってもいいのかもしれないね。市のポスターは目にする機会が多いイメージがあります。鳴門、池田とか(徳島市以外の他の自治体の阿波おどりも含めて)ちゃんと県全体でアピールできるように。

(松本委員)

私の考えでは、環境が一番のベースにあるものだと思っていて、その上に産業が乗っかってくる。プラス安全安心なまちづくりが最終的に挙がってくるものだと思うんです。どういう「まちづくり」をするかということも、全てベースは自然・環境だと自分は思っています。

例えば、案では全て並列で項目があって、それぞれの全方位的な意見を書くということしかできないと思うんですが、例えば若者たちの意見を集約して、県に提案するとしたら、優先順位だったりとか、何が一番若者が興味を持っているよというのを伝えるのがこの部会の仕事なのかと。例えばここにいる方々で、「新未来セッション」にも参加して、若者たちの興味関心がここにあるよねと各々がどう思ったか。それによってその部分を濃くしようみたいなことぐらいは、できるのかなと思います。私が思ったのが、県政の事だったり、若者たちが日頃考えることがなく、知らないというのが、ほとんどだと感じています。一般の高校生は全然知らなくて、どうやって若者が知らない状況からもっとそれを県として巻き込んで、徳島県を創っていくかという、やり方を県に考えてほしいなと思ったというのが、若者意見を聞いてて私は思いました。他の方はどう思われたのでしょうか。

(青木部長)

では、参加された方で。

(池添委員)

「新未来セッション」の城ノ内高校と富岡東高校に参加させていただいたんですが、会場によって徳島に対する思い、熱さは違いました。県南の方が自然に実際に触れ合っ生活をしてきてるし、徳島の一般的なイメージの「自然豊か」みたいな事に対する愛情がす

ごくあるなと感じました。逆に城ノ内会場の方が、徳島県の事を全然知らなかった。一番の意見として出させていただいたのは、この中に取り込んでいただいているのですが、若者同士が交流する場があればいいなというのを思いました。また、若者でもすごく考えている子は考えているので、そういう意見をいつでも汲み取れるような場所があればいいなと感じました。

(近藤副部長)

普段からこう考えているのか、もしくは今回こういう機会があって、花開いたりも、どっちもある。

(池添委員)

どっちもあるし、たぶんやってる子はNPOの活動に参加したりとか、例えば牟岐とかならそういう教育されてたりとか、そういう機会に接したことがあるかないか。単なる受験勉強だけで生きてきたか、様々な経験をしたかどうかというのがあるので、教育のところで「阿波を知る教育」は非常に大事だなと。徳島県内でインターンシップにたくさん行ったらいいなというように。身近な課題をぼつぼつと高校生らしい意見を言ってくれるので、それを一歩広げていくためには交流の場が大事だなという感じがしました。

(上田委員)

「阿波徳島を知ろう」みたいなのは、私もずっと思ってたことであり、情報発信が弱いのだろうなというのは、皆さんおっしゃっていた事だったと思います。端の端まで届いていないということは、見せ方であったりとか、拾い方の問題。でも知ってもらった時には、郷土愛だったりとか、徳島をもっと深く知りたいとか、歴史だったりを顧みたりするきっかけになると思います。

考えながら何が一番、言葉は悪いんですけど手っ取り早くいけるのかなと見ていました。親の世代からしても、学校教育から受ける情報が多いんです。防災に関して、どこどこに逃げます、学校だったらこんなことが学校の中であって、地震が発生したら火災が発生したらここに逃げます、こう逃げます、だから親御さんは、一番近いところにいる親御さんがここに迎えに来てくださいとか、親も様々なツールを使って学校側から発信をしてくれています。地震が起きたらここに逃げるとか、すごく細かに綿密にやってくれてたり、それをお家でも話し合ってくださいねというのをしきりに言ってくださる。それで、やっとな「じゃあどうしようか」と話し合ったりするきっかけになったりするんですよね。

今回の学生さんたちの話し合いとかも、私たちからのきっかけじゃなくて、もっとナチュラルにいろいろな所であつたら良いのになというのを、学校教育だったりの場を巻き込ませてもらって、「徳島郷土学」じゃないけど、授業としてあって、徳島の今を考える授業じゃないですけど、そこでこんなことやってるんだよ、あんなことやってるんだよっていう、大人が伝えたいこと、知っておいてほしいことを出せる、露出させる場みたいなのがあってもいいのかなと思います。それだったらその中で「意見交換しようよ」とか、これから「徳島こうなってほしいよね」という意見交換をここに組み込めたりするかなと。

(竹内委員)

これ確かによくまとまっているんですけど、全方位的だし、行動計画まで落ちているものではなく、目標・施策の方向性なので、これを一つ一つ取り上げてこれはだめと言えるようなものではないと思うので、これも良く出来ているなという感じで、文句言うところはあまりないんです。でも、全方位的だし、よく言えば当たり前・ありきたりに見えてしまっ。その時に、松本さんがおっしゃった、優先度とかがないから、僕たちはここを推してるんだよってというのがあれば、確かに意見としては何か核が一個できるのかなという気がしました。私は、「新未来セッション」にも2回行かせてもらったし、この場は若者クリエイト部会なので、若者の意見を伝えるべきですし、フォーカスすべきかなと僕は思うので、もちろん全部大事ですけど、「ここに重さを感じてます。それはなぜなら、高校生、若い人たちはこうやっているからです」という裏付けになると説得力が増すのかなと感じました。行って感じたのは、高校生とかみんなしっかりしゃべってるので、あの場があればこの場はいらないんじゃないかなと思いました。あの場が全てなんじゃないかなと。もちろん、若いし経験も足りないので稚拙なところもあるし、今ここにいるメンバーは皆さんそれなりの経験を経てるし、専門の分野もあるでしょうから、そこはあるんですけど、彼らはしっかりしゃべる場を与えてあげたりとか、聞く場を作ることが大事なかなと思っています。

さっき徳島県の事をみんなあんまり知らないみたいな話があったと思うんですけど、発信の仕方も本気じゃないと思うんですよ。ホームページに載せたら発信した気になっている、YouTubeにチャンネル作ったら発信した気になってると思うんです。もう義務果たしましたみたいな。僕には本気に見えないんですよ。本気だったらあれ見てくれてるかってアンケートもとるし、見てくれなかったら見てくれてって広告打ちに行くし、民間企業だったらやるはずなんですよ。行って意見をくださいと。なんなら直接意見聞きに行きますよ、行って意見ください。頂いた意見には絶対返事しますよね。2回目の返事絶対もらいたいですから。絶対無視したりしないです。その公開してるっていうのにもどこまでが建前になっているのかと、どこまで本気出せてるのかの熱量の違いが出ているのかなと思いますね。気持ち変えるだけでも伝わるものは伝わるんじゃないかなと思いました。

一応ITが専門なんで専門家からみると、AI・IoT・ICTという言葉に頼りすぎてるなと感じましたし、万能なものに見えすぎていて、AIとかIoTは、放っておいても進化しますし、良い技術は勝手に入ってくるんです。みんなビジネスでやってる中、良いビジネスは徳島県に売りたいので来るし、みんな良い商品は絶対買います。だから、AI・IoTをもう少し絞った方が良くて、AI・IoTに対して具体的に徳島県はどう向き合うかが書かれているところだけに絞った方が良いと思います。僕が良いなと思ったのは、徳島県はIoTのモデルになります。要はこれら実験体になるぜっていうわけですよ。僕は確かに素晴らしいなと思っていて、徳島にしかできない、徳島には林業があるし農業もあるしいろんなものがあるんで、徳島が実験台になるのがふさわしい研究内容はいっぱいあるはずなんです。だから、積極的に手を挙げて実験台になっていきます。その分、最先端のものをうちは先に入れますよということかと思うんです。モデルになるということはリスクもあるわけですよ。実験台になるわけなんで、自動運転の車がどっかぶつかるかも知れないわけです。そういうのもリスクは許容した上で攻めるよという姿勢を見せれ

るか見せないかだと思っんです。それをリスクを踏まえた上で攻めるよというんだったら、僕はすごい素晴らしい案だなと思っました。今徳島県がシリコンバレーみたいに世界中のAIの研究者を集めます、それは無茶な話だと思っんです。そんだけの予算があるかとかそんだけの企業を呼ぶ力があるかというたとぶん現実的ではないので。向き合い方としては僕はそのモデルケースになりますというのは良いのかなと思っました。以上です。

(青木部会長)

ありがとうございます。近森さん、どうぞ。

(近森委員)

私も城ノ内高校に行かせていただいて、何人かはすごく発言してくれた子がいたので。確かその内の一人の子が、ご両親が関東かのご出身でご実家によく行かれていてということで、比べる対象があるから余計徳島に対して不便だなと、もっとこうだったらいいのになって、良いものを見るからこそ。例えば交通の便がすごく発達しているところで、帰って徳島を見た時に交通の便が良くないから、もっと改善したらという意見を言ってくれたり。今回大学生・高校生のアンケート見てみても、交通の便が悪い・不便と書いてあって、確かにそれはそうなんですけど、たぶん交通の便が良いのを知らなければここに気付かなかったのかなと思っ。私自身も一回徳島を出て外から徳島を見た時に確かにマイナス面はあるんですけど、だんだん年を取る毎に良いイメージが出てきて。今だと東京行っても徳島にすぐ帰りたと思っんですよね。逆に交通の便が良すぎて疲れることもありますよね。でもそういうのってきっと年代もあるんでしょうし、経験をしてくるからこそ感じる部分。そう感じているっていうのも率直な意見なんだなっていうのが印象的でした。

今回、じゃあ徳島も交通の便を良くしたらいいのかとそういう話ではなく。「このまま定住したいですか」とか「県外で住みたいですか」とかいろいろあったかと思っますが、半数の方が「一回出るけどやっぱり徳島に帰ってきたい」と書いてあって、帰ってきたときにどうい徳島がいいという要望が今回の施策に反映されていたらそれで十分じゃないかなと。

それとあともう一つ、私自身も働き方改革、多様な働き方ということで仕事をさせてもらっている中で、8ページ記載の「子どもはとくしまの宝」宣言の中に、「テレワークをはじめとする多様な働き方」とありますが、これだと子育てのための多様な働き方に見えてしまっ、今は全ての人に対して多様な働き方が開かれるべきだと思っっていて、それは私個人だけではなくてそういう今世の中がなっっていて、子育てだけじゃなくて介護もあるでしょうし、きっと病休もあるでしょうし。いろんな状況で今でいう8時から17時までかっちりして働けないという方も。そういう方であったとしても、どんな方であったとしても仕事ができる。そういう仕組みがまずは徳島からできたら本当に素晴らしいと思っます。そういう考え方がいいかなと思っました。

(青木部会長)

ありがとうございます。

先ほど、松本さんが言われたとおり、その中で順位というか、竹内さんも言われたとお

り、どれを推していくかというのは、ここで決めておく必要があるかと思います。今は前半なので、議論した中での、この項目+αを加えながら、じゃあどれを載せていこうか、どれを推すのかということをお伺いしたいなと思っております。分野や区切りだけじゃなくて全体の個別の将来像や施策の方向性についても、クリエイト部会としてはこれを一番に推してほしいと、竹内さんが言われたとおり、高校生の意見にも裏付けあったら重みも違うと思うし。今からの時間少し現実的に落とし込みをしてまいりたいと考えますので、ご意見をよろしく願いいたします。

(村松委員)

優劣をつけるのはきわめて難しい、それは不可能なんじゃないかなと。個人的に自分としては「順番」だったら置いていけるのかなと思っています。というのは、どう暮らしたいとか、自分はどうなりたいか、どこに住みたいのかというの自分の意志だったり希望として出てくると思うんです。ただその、防災とか福祉とかそういうことは、例えば地震なんか誰も来てほしいとは思っていないし、でも来てしまうかもしれないし、福祉的な事で言えば、単純に年を取っていけば介護する側になって、介護される側になって、それも介護する必要もなければその方がハッピーかもしれないですし、介護されることもなければそれはハッピーかもしれない。でもこう生きていきたいといったときには、それがどうしても必要になってくるようなところかなと思っています。僕なりの順番としてはどう生きたいとか、どういう教育を若い人に向けて何かを伝えたいとか、あるいはこの「まち」を県をどうしていきたいかというところが始めの方に来て、それに関わる産業だったりとか技術だったりとかがあって、そういったものをきちんと安心して継続的に保証していくためにシステムをどうしようとかの考え方に私なりには頭の中で順番付けをしてみているところなんです。それによっては、どうしたいかどこでどう生きたいか、岡田さん言われたように、サステイナブルな社会の中で環境を整え、人として生きていきたいのか。少々不便なところであったりとか、少々森の中であったりだとか、やっぱ海の近くに住みたい、そしたら津波が来るかもしれない。でもそこで生きたいんだとしたら、それに即した防災のあり方があるんじゃないかなと思いますし、もしそうじゃなかったら防災の在り方というのもそれに即して。もしかしたらみんな都会に住みたい、都会的に住みたい人はコンパクトシティ的な発想で、なるべく災害のリスクが少ない所に住みたいなら、その防災の在り方もあるとは思っています。

先日我々がお話を聞いた高校生であったりとか、彼らがどういう将来像、生き方を選びたいか、イメージしていきたいかというところが一番最初の順番として僕個人的には何か包括して、若い世代もそれについて熱心に考えていけるような施策になったらいいなと思います。

(近藤副部長)

今のお話を伺っていたら、ストーリー性がある方が分かりやすいと感じました。

(池添委員)

まず、「ひと・教育」のところ、「人を育てる、阿波を知る」というのが教育に関係

すると思うんです。一番最初に「人を育てる、阿波を知る」。それが子どもでも、大人も高齢者も全て含めての項目。二つ目にそれとは分けて「すてきに働く」みたいな。「働く」は林業で働くとかいろいろな新しい働き方もあるだろうし、プラスどんな方でも働きやすいみたいなのがあって、その次に「災害に強い」を入れるかどうかは「人を育てる阿波を知る」のところで、もしかしたら災害も入ってるかもしれないと思うんですけど。

その次のところが、「阿波を活かす」。林業もそうだし農業もそうだし自然豊かなのところもそうだし、経済とか産業とかも、そうくるか、徳島はこんな魅力がいっぱいあるからそれを活かしていこうみたいなくりにしても良いかなと。最後、インフラ整備とか技術革新とか医療・健康の発展みたいなところはここで出さなくても進んでいくから、「誰もが幸せに暮らせる」という感じのまちづくりじゃないけど。私としては一番最初に「人を育てる阿波を知る」「すてきに働く」「阿波を活かす」という三本柱みたいな感じがいいかなと思いました。

(近藤副部長)

どっちかっていうと、防災は三番目に言っていた「阿波を知る」あたりのところに入るかな。

松本さんが言ってくださったみたいに、階層的にしたらいいか。ここに環境があってその上で人を育てて、すてきに働いて、阿波を活かすみたいなのがその上に乗かってて、それをまとめて誰もが幸せに暮らせるみたいな。

図を書いてみたときに、今だったら横並びで並列になってるけど、そうじゃなくてベースがあってここに上にこうあってそれを交換してみたいなそんなイメージがいいのか。どうなのでしょう。

(松本委員)

どこが大事か結局それでは分からない気がして。私は順番なり推しは見せるべきだと思います。そうしないと、この場でどういう意見を自分たちで出したかというの分からないし、それが反映されたか反映されていないかも分からないし、反映されたらここでも意見聞けるし、反映されてなかったらもっと反映させるために僕らもこの部会でどうしたらいいとか、高校生たちにもフィードバック出来ると思うんです。ここの意見をまとめた上でこれを推したんだけど、こういう結果になったって。それは付けた方がよいとは思っているんです。例えばアンケート結果から、今回の意見をまとめるとすると、「県外に出て戻って住みたい」というところが30%と県内大学生の11%いて、ここが戻って来るか戻って来ないかがこれからはすごく大切だと思っています。じゃあこの人たちが定住したい理由は人のつながりがこの徳島にあるのはまず一つ置いておいて、二番目に挙がってきているのが、豊かな自然がここにあると思ってるからとか、阿波おどりと方言とかの郷土愛的なところがあるよとか希望する就職先があるというのが大学生でも挙がってきていて。豊かな自然を残すためにとか、阿波おどりを、郷土愛をもっと育てていく。県に提案的にするならここを突き詰めてやれば、県外に今出て戻って来ようかなと思ってる人が、戻って来る可能性が高くなりますよという話にはなるのかなと思っています。逆に定住したくない理由で行くなら、都会に興味は置いておくとしても、公共交

通の便が悪いというのはみんなが感じているところが大きいのかなということで、それは実際高校生の話を聞いてそれは感じたんですけど、自分自身はどうかなとは思いますが。私としては、自然と郷土愛というところと希望する就職先のところで、じゃあどんな就職先を希望しているかという、5番目に学術研究・専門とか技術サービス業があって、自分のプロフェッショナル、身に付けた技術をここ徳島で活かせるというような仕事があったらいいのかなというのは、一つは神山の事例とか、それこそ竹内さんがやっているような会社も、そういうプロフェッショナルな会社がここに徳島にあるという、どっかの分野に優れた会社が。そういうのがあればこういう人たちが戻ってくる可能性が高くなるかなとそんなこと思ったんですが。

(岡田委員)

入れ込んでもらえるキーワードなり施策、要は高校生・大学生から挙げてきた意見を基に「こういうやり方がいいと思います」みたいなものをバチッと入れたらいいんですね。

(近森委員)

総計審のものと似ている感じはするんですよ。これはこれですごくまとまっているので良いと思うんですけど、高校生の意見を吸い上げて、ここでこれだけ皆さん議論したんで、自分たちの言葉でぶつけたらどうかなと思いました。

(岡田委員)

例えば、高校生部会を作る提案だったりとか。若者クリエイト部会はないかもしれないけど、高校生部会はできましたとか。大学生部会ができましたとか。大学生部会はもしかしたら東京でもいいかもしれない。東京に出ている大学生で大学生部会してみまじょうとか。そういうのもありかと。

(青木部会長)

若者が語り合える場所を、単発で終わらないように継続して欲しいという意見もある。それをきっちり形にして、持って行きたい。

(近藤副部会長)

皆さんのおっしゃることがすごく分かります。高校生部会とかインパクトもあるし、やったらやってないかが分かるというのでは、そういう意味では重要だなと思います。今回の計画を作っていく親会（総合計画審議会）のほうも、個別の行動計画ではなく、どういう方向性で行くかという、3ページのとおり、上の二つのところで練られているんです。ここの姿ができてからの、個別の行動計画、ひとつひとつ具体的なことをやっていかれるかというのを作られると思うので、意見としてここの辺りの目標がいいかと、教育とか、あと、阿波を知る郷土愛に含められていますけど、阿波を知るところが、皆さんご意見あったので、そこはかなり推しなのかということとか。後、本気で情報発信をしていかなければならない、そのためには、どのようにやっていくみたいところは推しです

よ、というところとか。しっかりと、サステイナブルな世の中になるために、産業もそうだし、まちづくりのところでも、しっかりやらないといけない、推しですよというのが、今分かったと思うんです。こういうのを、しっかりとこの形でないにしろ、まとめた上で、「実は、こんなのをやってほしいです」というのを付けといたらいいかなと。まずそっちを最初に出しておいて、個別の分野ではこんな方がいいかなという提案をしたらいいかなと。阿波おどり協会とか高校生部会、大学生部会も、言ってみる。

(岡田委員)

民間でできることは民間の方でして、行政しかできないことは何なのかということで、高校生の意見をしっかりと取り入れていく仕組みであったりとか。高校生自身が地域それぞれで、しっかりとコミュニティを把握して、どうすればいいかと認識を持ったり、課題を見つけたり、それに対してどう対応すればいいかみたいなのを、みんながそれぞれ地域なり、できる立場で考えていくのが大事だと思います。行政しかできないことが吸い上げられて、それに対応できる仕組みづくりは整えておくべきだと思いますし。

せっかくなので、他に、高校生の意見が吸い上げられる仕組みってあったりするんでしょうか。

(近森委員)

総計審のメンバーに、高校生を入れることはできないんですか。
大学生はありましたよね。

(近藤副部長)

教育なんかの時でも。
あんな感じでいっぱい入ってきたらいいのにな。

(青木部長)

それも一つのアイデアですよ。意見ですよ。
今までやらなかったことを、総計審に自ら、高校生を送り込むと。
ひとつの案だと思いますよ。

(池添委員)

こういう会をしたら、こういうレスポンスがあったり、こういうことを取り入れるような仕組みができました、ということも、ひとつの成果にもなる。それも提案したらいいと思う。

ここに出てきた意見はペーパーとしてまとめておくことも大事ですよ。そういう仕組みを作るっていうのは、今入っていないから、それはペーパーに入れたらと。

(岡田委員)

県に任せようとするのではなく、これ全部それぞれの課題について、県内の企業だったりとか、個人が入るか、こういう取組をしていきますって、民間企業に全部あてはめて。

県は県でやってください。ここについては、民でやるとか。民間でもちゃんと取り組んでいくんだよっていう姿勢みたいなものを見せれたら、もっと強くなるというか、それこそ、その地方での県の役割がすごく少なくなる。本来あるべきかもしれないが、時代の流れの中で行政のみが多いよりは、必要な部分だけやっていくというような形にするのが、健全だったりするのかなと。

(近森委員)

ぜひ、そうしていただきたいなど。アウトソーシングで活躍できるので。県も本来しないといけない仕事ってあると思うんです。外にどんどん出せばいい。そういうことで、一般企業とか個人の方が県政何をやっているのかおのずと分かる。

(吉野オブザーバー)

皆さんの中で、仕組みを残そうというのは共通しているのかなと思います。「新未来セッション」、私も行きまして、高校生や大学生、時間も限られているので、出し切れていない部分もあると思いますが、おもしろいことを言ってくれるなというのは感じました。県がいろいろ取組をやっているんですけど、高校生にそれが伝わっていないというのが事実なので。今の総合計画は、夏の時期に県政運営評価戦略会議の中で評価を受けて、見直しをしていくようになっている。今日皆さんお話を聞いていて、毎回夏に若者の会があってもいいんじゃないかと。その子たちに評価しろというのは無理なので、県政を知ってもらう機会を設けながら、若者意見はどうなんだと。県の施策がすぐにどうこうじゃないけど、若者の意見を、そのシステムを残すというのは面白いかなと。総計審に若い人を送り込むのも一つの方法だし。議論できる場を作りましょうと。そこは個人に頼るのではなく、いろんな高校の子が集まったり、大学生が集まったから面白いなという。できる子はできるので、そういう子たちが何人か集まって意見交換をさせたら、面白いんじゃないかと感じました。

後は、難しいところですが、施策的なところも打ち出したいところなんですよね。優先順位となってきた時に、個人の関心がある中で、難しいなと思いながら、まとめるのであれば、アンケートの中で上位に来ている部分を中心に拾い上げるしかないのかなと思いました。

(竹内委員)

今回は、ビジョンを出せと言われてるので、ビジョンを出さないのは違うと思うんです。ビジョンを出さずに若者クリエイト部会の次の形を考えましたと持って行っても響かない。ビジョンは出すべき。ビジョンで、何に重きを置くかということ、絶対アンケートに重きを置かないとダメだと思います。アンケートとった意味がないので。アンケートに重きを置いて、包括してビジョンを、ここが大事ですと。更に言うと、アンケートによると、人のつながりとか、人が大事と言ってるんですよね。若者を育てなきゃいけないとか。育てる上で、まず先に知ってもらわなきゃいけない。優先順位としてはアンケートとして、これをやらなかったら若者が逃げちゃうんじゃないですか、というのは裏付けになると思うんです。ビジョンはビジョンでまとめて、その中の話のスピノフじゃないですけど、

若者の意見を、若者クリエイト部会の次の形は、こういうのですよみたいな。本当は別立てなんです。ビジョンはビジョン。まったく別のことをいきなり突っ込んでいきたいわけではなく、つながっている話でもあるんですよね、未来の形っていうのは。徳島のことを知ってもらわないと議論はできないし、知った上で若者の意見を取り入れるなら、若者に語らせるのが一番早いんですよね。そういう、二段構えなんですけど、二段が、別のことを言ってるんじゃないよって、つながりがあった上の二段になっていると、資料としての収まりがつくのかなという気はしてます。まだ僕も、前の部分がボヤッとしているので、優劣も難しいし、この中のどれか1個と言われても、難しいのはそのとおりかと思っています。

(川西オブザーバー)

皆さんが言っていることはごもつともだなと。

若者からの意見が、次につながっていければよいと思います。意見出しただけで終わらずに。

(富田オブザーバー)

定住してもいいという意見よりも、したくない理由を私は強調していくべきではないかと思っています。

(新居オブザーバー)

池田高校生は、地元愛がすごくて、私も知らないようないろんな魅力を発言してくれていました。いろんな子たちが集まって、意見を出し合って、それを吸い上げることができる場があり、つなげていくことができればよいなど。みんな徳島が好きで、アンケートでも、定住したい理由として、自然とか、阿波おどりの交流とかが挙がっているので、外の世界に向けて発信していく方法を考えていかななくてはいけないと思います。

(松田オブザーバー)

私は、城ノ内高校に行ってきたんですが、会議しながら現在進行で、ツイッターみたいなのがあったんですが、あの機能、すごくいいと思いました。会議の時、高校生自ら手を挙げて発言していたのは、1割にも満たなかったかと思っています。当てられて意見を言っていた人を含めたら、合計2割ぐらい。それ以外の8割は普通の高校生なんだなと。発言していた2割の人は、しっかり徳島県のことを考えているので、どちらかというとなら若者の意見というよりは、大人寄りの意見なのかなと思っています。普通の高校生の、若者の意見は、8割の方だと思っています。なかなか発言できない普通の高校生も、8割の意見を吸い上げる方法としてツイッターみたいなのがあったと思うので、先ほどおっしゃったように、若者に会議に参加してもらおう仕組みをつくるというのもありだと思いますが、それと並行して、若者の意見を取り入れるような、ツイッターみたいなのもあったらいいのかなと思います。

(茂村オブザーバー)

若者の交流の活動の場があればいいのでは。小中高の内に徳島の事を学ぶ機会があれば。

(吉田オブザーバー)

皆さんの意見を聞いていて、優先順位というのに、なるほどと思って、自分で考えたんですが、なかなか難しいなあと思いました。優先順位をつけるにしても、順番をつけるにしても、みんなが輝く「ひと・教育」とくしまが一番かなと思っています。これはなぜかという、城ノ内高校の「新未来セッション」に参加したんですけど、そこで高校生の意見を聞いていて、徳島に対して不満は持っているんですけど、嫌いな人はいないなど。もっと徳島のことを知りたいとか、好きになりたい、そういう印象だったので、郷土愛とか徳島スピリットを育むというのが一番大事なのかなと。

もう1個は、今日の話聞いていて思ったのは、こういう若者が意見を吸い上げるっていうのもありますが、若者同士の意見交換をする場もすごく有効かと思いました。

(青木部会長)

ありがとうございます。他に、付け加えるべきことはないでしょうか。

(松本委員)

僕自身が徳島出身でないからかもしれないですが、郷土愛教育みたいな表現はやめてほしくて、愛さなければならないという必要はないと思うんです。郷土を知ることは必要で、その郷土を知った上で、その人が愛すか愛さないかは、その人次第だと思っています。郷土を知る教育はあった方がいいと思うんですが、愛という表現はなくていいのかなと。

(村松委員)

今まで議論してきたことは、高校生の意見だったり、アンケートのことをベースにペーパー企画をまとめて、根拠に基づいてまとめるというのは、極めて重要だと思います。

インパクトみたいなことで、世界阿波おどり協会なのか、若者の会議とか。聞いてて思ったのが、こういう場であったりとか、意見を高校生だったり、一般の人だったり吸い上げる。ただ行政が主体の中で吸い上げられましたと、ペーパーにどこかに書かれて、ペーパーに残っているくらいだと思うんです。意見を企業がすっば抜いてやっていけるような、そういう意見を何か活用し得る企業たちもそこに入るような形で。行政として施策としてまとめて、予算つけて公共事業にいかなくても、そこでもしかして学生とマッチングして何か企業ができたりとか。形になったら身になるのかなと。僕らも含め、一昨年とか祖谷でダボス会議みたいなのをやりたいと。補助金の申請させてもらって、イベント的にやったんですけども。それもなかなか次のステップに行けてないんですけども、そういうことは重要だなと思っています。教育機関の教育もそうなんですけど、何かあったら、優秀な人材とか面白い人材と出会える。そのつながりが大事なので、それがしやすいから都会に出たり、人材も集まっていつているんだと思うんです。ネットにつないで会議をして、若い人を企業とつないで、ということができたらなと思いました。

(岡田委員)

希望する就職先がないということなんで、例えば県内の大学生企業を県がサポートするっていうのもあるかもしれないし、民間でもサポートする仕組みっていうのはどうかと。高校生企業もありますよね。

(池添委員)

アンケートの扱い方が非常に難しいなと思っていて。項目を立てている時点で誘導しているところありますよね。過去とどう変わっているのかなというところが非常に大事だから、これだけ見てもよく分からないところもあります。もう少し、昔のデータと比較して、今の県内高校生、大学生がどうなのかというのを見てから入れないと、意味がないのかなと。

(青木部会長)

ご意見は他にもあるかもしれませんが、そろそろお時間がまいりました。近藤副会長にまとめていただきたいかと。

(近藤副部会長)

まず、現状として、今、徳島のことを、若い人、我々の世代も含めて、知らない。知ってもらうことが必要ですよという前提の下、まず一つ目に、アンケート結果に基づいて、昔のデータと比較しながら、皆さんからいただいたご意見、「新未来セッション」でのご意見も含めて整理をしていくと。

並びとしては、「人を育てる、阿波を知る」というのがまずきて、「素敵に働く」がきて、「阿波を活かす」。そして、誰もが幸せに暮らせるようにというのを踏まえながら、その3つのくくりの中でも、ストーリー性を付ける。推したいところを何度も登場させたり、太文字にするとか、しっかりと強調していくというのが2番目。

3番目が、今後の若者クリエイト部会の在り方について、これはプラスの話だけど、おまけに入れておいて、皆さんがおっしゃったように、一番重要なのは、考える場、いろんな人と意見を言う場をつくるということ、今回のクリエイトの中で実施したことに対しての成果も合わせて強調すると。それプラスして、民間企業がこれやってみたいと思えるような表現にできるように努力はします。多様な主体が公共を担っていかなければならないので、民間がどんどんやっていって、行政の役目がどんどん小さくなるべきとか、本来あるべき姿にもっていけるようなことを描いてますよという。分かりにくいかもしれませんが、こんなまとめでよろしいでしょうか。

(青木部会長)

ありがとうございました。資料3、「若者意見取りまとめ(案)」については、もう一度、我々と事務局と相談して、修正をさせていただきながら進めていく形でよろしいですか。最後は、私部会長一任でよろしいですか。

はい、ありがとうございます。それでは、そのように修正して、総合計画審議会に持って行きたいと思います。事務局から補足説明はございますでしょうか。

(事務局)

- ・最終的に、この部会でまとめていただいた「若者意見取りまとめ」については、総合計画審議会にて部会長からご報告、ご提案をいただくという形でお願いしたい。
- ・まとめていただいた意見の反映につきましては、これから、いただいた案をもとに作っていくので、できるだけ早い段階で、こういう反映をしていますという形でフィードバックをさせていただこうと考えている。
- ・会議録の公表については、事務局で取りまとめた上、青木部会長に確認いただいてから、発言者名も入れて公開したい。

(以上)